

「学校教育ビジョン 自ら学び、ともに伸び みんなでつくる 行きたい学校」

- めざす学校像 ・安全で安心して過ごせる学校 ・子どもも教師も成長を実感する学校 ・家庭・地域とともにある学校
- めざす児童像 ・自ら学ぶ子 ・自他の違いを認め、自分も人も大切にする子 ・挑戦を楽しみ、粘り強く取り組む子 ・地域を愛する子
- めざす教職員像 ・子どものよさを認め寄り添う教師 ・学び続け挑戦する教師 ・チームの一員としての自覚を持ち協働できる教師 ・地域を愛する教師

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定結果(中間)	評価の観点(最終)	今後の改善策
① 教育課程・学習指導	自ら考え、自分でみんなで学び続ける自律した学び手の育成ができる授業づくりを目指す。	日々の授業において子どもの委ね度を考え単元をデザインする。毎学期、全校で「単元内自由進度学習・ハイブリッド学習」を実施する。1学期・2学期に個人探究を3年生以上で実施する。以上の取組から自律した学び手を育成できることにつながる授業づくりを目指す。	研究主任	昨年度は、「Be the player(子どもに委ねる学び3.0)の実現に向け、子どもが学びの主役になる授業づくりに取り組んできた。その結果、昨年度ScTNアンケートの結果では、「授業を進めるのは、先生ではなくて、自分だ」と思いながら学んでいる児童が「1学期75.8%、2学期80.2%」と目標の80%をこえ、学びの主役は自分であると感じる児童が増えた。今年度はさらに児童の自律した学びを定着させ、さらに伸ばしていく。	【成果指標】 スクタンの「学びに向かう力(項目⑭～⑳)の平均において、4.0以上を取る。	スクタンで「学びに向かう力」(項目⑭～⑳)の平均で A 4.0以上 B 3.8以上 C 3.6以上 D 3.6未満			
	「Be the Player Plan」をもとに、自ら学びともに伸び、学びの楽しさを実感する子を育て、確かな学力をつける。	「Be the Player Plan」をもとに、年間を通して計画的にマイプラン学習・マイ探究を位置づけ、自ら学びを進め、学びの楽しさを実感することを通して、「Be the Player(自ら考え動く生み出す子どもの姿)」を目指す。また、そのような児童の育成と並行し、確実に学力向上も図っていく。	教務主任	昨年度は、「Be the player(子どもに委ねる学び3.0)の実現に向け、「Be the Player Plan」を作成し、各学期にマイプラン学習を行い、主体的・協働的な学習、誰一人取り残さない教育の実現を目指した教育活動を行い、大きな成果が見られた。今年度は、昨年度の成果を土台に、マイ探究活動も新たに取り入れ、児童の自律的な学びの実現とともに、教科のねらいも達成する授業も実施し、年間を通して2軸のバランスが取れた授業改善を推進していく。	【成果指標】 単元末・学期末テストにおいて、低学年は2教科、中学年以上は4教科の平均点で80点以上を取ることができる。	単元末・学期末テストにおいて、低学年は2教科、中学年以上は4教科の平均点で80点以上を取ることができた児童の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満			
② 生徒指導 ※いじめの未然防止	自分から相手の目を見てあいさつをする子を育てる。	集会や児童会活動であいさつの意義や仕方を考え、生活目標などでめあてを立てながら実践をする。	生徒指導主事	昨年度からあいさつの向上をねらって取り組んでおり、少しずつあいさつは増えてきた。しかし相手意識は十分ではない。今年度は様々な場面を考え、自分から相手の目を見てあいさつをする意識をさらに高めていく。	【成果指標】 自分から相手の目をみてあいさつをすることができる。	自分から相手の目を見てあいさつをすることができる児童の割合が A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上ある D 75%未満である			
	いじめの未然防止・早期発見・対応を行い、安心・安全な学校づくりを進める。	「いじめ問題対策チーム」を常設し、情報交換・共有化・共通理解等のため研修会を行い、いじめの未然防止、早期発見・対応に努めるとともに、特別支援校内委員会を活用し、児童理解、個別支援に取り組む。	生徒指導主事	昨年度スクタンアンケートによると「学校には、自分のことを認めてくれる先生がいる」の質問に対して約79%の児童が肯定的な回答をした。いじめの未然防止・早期発見・対応にむけて、安心・安全な学校づくりをするためには、教員が児童一人ひとりに寄り添えることのできる組織でありたい。そのため、教師間で児童の気になる行動を積極的に共有し、いじめやトラブルの未然防止や早期発見に努めていく。	【成果指標】 児童が、「学校には、自分のことを認めてくれる先生がいる」と感じている。	「学校には自分のことを認めてくれる先生がいる」と感じている児童が A90%以上である B85%以上である C80%以上ある D75%未満である			
③ キャリア教育	学校生活の充実と向上を図るために、委員会活動や係活動を中心に活動のめあて達成に向けて、役割を分担し、主体的に考え実践できる児童を育てる。	児童がめあて達成に向けて、役割を分担し、計画を立てる。いまの学校のみならず協力して全員が通うことが楽しくなる学校をつくれると感じられるよう、主体的に係活動や委員会活動等を行う。	児童会	昨年度は、児童が意欲的に活動内容を考える姿が見られた一方で、その活動がめあての達成にしているかを吟味することに課題があった。今年度は、「行きたい学校」を実現するために、どのようなめあてや学級目標が適切であるかを児童とともに考えた。今後は、児童の主体的な思いを尊重しつつ、常にめあてに立ち返りながら活動を展開していく。	【成果指標】 委員会活動や係活動を充実させ、児童が主体的に活動に取り組んでいる。	委員会活動や係活動を充実させ、「今の学校のみならず、協力して、全員が通うことが楽しくなる学校をつくれると思う」児童が、 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 75%未満			
④ 保健管理	心と身体の健康について考え、たくましい心と体を作り、健康な生活を送るための習慣や態度を養う。	児童が自らの心身の健康の大切さに関心が持てるよう、委員会活動や学校保健委員会などで取り組む。	保健主事	本校では正しい姿勢を保持することが困難な児童が多い。そこで、姿勢の保持に必要な体幹を鍛えるとともに姿勢保持の意識が高められるように、学校保健委員会等を通して児童や保護者に働きかけていく。	【成果指標】 体幹を鍛える指導に体育の授業や様々な機会を通して、取り組んでいる。	体幹を鍛える指導を体育の授業等で取り組んでいる教職員が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満			
	運動の楽しさと喜びを体得させ、生涯にわたって運動できる体づくりに努める。	自分のめあてをもち、日頃の体育の授業や体育的行事に主体的に取り組む、運動の楽しさや達成感を味わうとともに、体力の向上を図る。また、運動が苦手な児童も安心して挑戦し、その過程を楽しめるよう、個に応じた目標設定や段階的な活動をする。	体育担当	体を動かすことが好きな児童が多く、休み時間には外や体育館で遊ぶ姿が見られる。一方で、昨年度は運動が苦手な児童に否定的な意見も見られたため、誰もが安心して挑戦できるよう、個に応じた目標設定や段階的な活動を推進していく。	【成果指標】 苦手なことでも、自分のめあてをもって、挑戦を楽しんでいる。	苦手なことでも、自分のめあてをもって、挑戦を楽しむことができる児童が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満			
⑤ 安全指導	児童が自らの命を守るために、適切に判断し主体的に行動できるよう、学校安全に関する意識の向上を図る。	学校と地域・警察等の関係機関が連携することで、実践的な防災教育・訓練を実施する。	教頭	地域と連携した登下校の安全指導、警察等関係機関と連携した訓練を行っている。児童は避難時の対応の仕方は概ね理解できている。今後は、突発的に起こった危機的状況に対しての行動力は身に付けることができるよう指導していく。	【成果指標】 児童が、避難時の対応の方法を生かし、自分で考えて的確に行動することができる。	避難訓練や防犯教室等で、自分で考えて避難行動ができた児童が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満			
⑥ 特別支援教育	一人ひとりの個性を大切に、よさを認め、安心して過ごせる環境づくりに努める。	個に応じた対応策や環境整備をするために、月末に児童の困り感や学級の様子を調査し、それをもとに校内委員会を開き、対応策などを全職員で共通理解し対応する。特性のある児童の理解についての研修や教員同士の学び合いができる場を設定する。	特別支援コーディネーター	困ったことがあったら校内委員会を開いたり、相談体制の強化を行い、教職員や保護者との連携、スクールカウンセラーや関係機関との連携は十分できた。しかし、校内委員会の回数が少なく十分でなかったことや教員の特別支援の知識や理解を深めることが必要と感じたため、研修会を増やしていく。	【成果指標】 教職員及び、教育支援員が、児童一人ひとりのために指導及び支援ができるように、コーディネーターや校内委員会のサポートが機能していると感じることができる。	特性のある児童の理解が深まったと思える教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満			
⑦ 組織運営・業務改善	学校経営ビジョンの具現化を目指し、教職員がチームの一員として組織的・協働的に力を発揮できる体制をつくる。	各部会、運営委員会、職員会議を計画的に行い、学校経営ビジョン実現に向け組織的・協働的に業務を遂行する。	教頭	各部会が十分機能できるように体制を作り、各部会、運営委員会、職員会議を計画的に実施し、組織的・協働的に教育活動を充実させていく。また緊急事態に対し、全員に即座に共有できるシステムを構築し、組織全体で協働的に対応できるようにしていく。	【努力指標】 学校経営ビジョンを実現するために組織的・協働的に業務を遂行することができる。	学校経営ビジョンを実現するために組織的・協働的に業務を遂行することができたとする教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満			
⑧ 研修	若プロの内容の充実を図り、「チーム動橋」で若手教職員を育てる。	若手のニーズや本校の実態に合った研修を計画し、日常的に授業改善・学級づくりのOJTができるよう計画していく。	教務主任 若プロ担当	昨年度、ベテラン教員は、学級経営や生徒指導、授業づくり等教員の資質向上に直結する研修を、若手教員は自分の得意分野を活かした研修の場を計画的に設定した。今後も若手・ベテラン両者にとって有意義な研修を実施していく。	【成果指標】 若手早期育成プログラムを受け、ステージに応じた資質能力を身に付けることができる。	若プロを受け、「授業・学級づくりに生かすことができた」と回答した教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満			
⑨ 保護者、地域との連携	「社会に開かれた教育課程の実現」に向けて地域・保護者と学校が連携し、開かれた学校づくりを推進する。	学校だより、学年だより等、各種おたより、コドモン、ホームページ等を活用し積極的に情報提供を行っていく。コミュニティ・スクールとの連携を図り教育活動を充実させていく。	教頭	学校だより、学年だより等、各種おたよりは定期的に発行している。また、地域資源(人・物)の活用と体験活動を取り入れ教育活動を進めている。社会に開かれた教育課程の実現に向け、保護者、地域との連携をさらに充実させていく。	【満足度指標】 各種おたより、ホームページ等を活用し、保護者・地域と連携し開かれた学校づくりを推進することができる。	学校の様子に分かると感じている保護者やCS委員等が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満			
⑩ 教育環境整備	自律した学び手を育成するために、ICTを活用する上で必要な情報活用能力を育成する指導を行うことができる。	情報活用能力の育成が図られるよう、学校研究と連携し、学習内容に合わせてGIGAワークブックを実践する。	情報担当	昨年度ICTをベースとした授業を展開することができた。ICTをベースとして活用していく上で情報活用能力の育成が必要となってくる。GIGAワークブックを使用し、学習内容に合わせて意図的に指導できるようにしていく。	【成果指標】 自律した学び手を育成するために、GIGAワークブックを使用し、学習内容に合わせて意図的に指導を行うことができる。	自律した学び手を育成するために、GIGAワークブックを使用し指導することができたと感じている教員が A 90%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 70%未満			

学校関係者 評価	
-------------	--